

学び合いを深めるために～MLS 発信～ 学習指導案

比叡山中学校 講師 藤田陽子

1 単元名 MLS による学び合いの推進動画作成

2 単元の目標

- ・主体的・対話的で深い学びを生徒自身が意識して授業に臨めるように基本的なことを動画に収める。 (知識・技能)
- ・制作した動画を各クラスで視聴させることにより、日常的な学びを活性化させる。 (思考・判断・表現)
- ・生徒が制作に関わることで、MLS としての自覚を持たせる。 (主体的に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

「主体的・対話的で深い学び」をキーワードに、「聴き合い・伝え合い・学び合う子どもたち」の育成をめざした学び合い学習がスタートして2年半が過ぎた。授業の改革は教師の意識改革である程度進めることができる。しかし、生徒自身が主人公であるという意識を持たない限り、いつまで経っても与えられた授業形態に甘んじて授業を受けているに過ぎず、主体的な探求学習にはならない。

そこで、生徒が生徒たちに呼びかける動画を制作することで、生徒発信の主体的な授業に貢献できるのではないかと考えた。

本校ではMLSという学び合い学習を推進する組織があるので、彼らの発信で制作を試み、その動画を全校生徒に視聴してもらうことによって、学び合いの基本姿勢を伝統として伝えていこうとする態度を育てたい。

(2) 生徒観

MLSのメンバーは定期的集まって各学級の授業の様子を交流している。そこでは、いい報告がある一方で、彼らが抱える課題もたくさん出てきている。特に、1年生では出身小学校バラバラであることや学び合いになれていない状況から人間関係がつくりにくく、課題が多い。距離感がつかみにくい状況下では互いに注意し合ったり褒め合ったりする関係となっていないので、MLSとしても苦労している。

また本校には、人間関係がつくりにくい特性を持ち、公立高校を避けて入学してきた生徒も多く、対話を柱とする授業の形態に慣れるのに時間のかかる生徒も多い。

(3) 指導観

第1次：MLSの定例会議で動画作成の案を図り、企画担当を決める。

*学び合い推進の課題を解消していくためにできることとして考えさせたい。

第2次：企画担当(2年生のメンバー6人)で原案を練る。

*3年生の受験前の負担を避けるためにできるだけ1、2年生を中心に推進したい。

- * 10月22日の公開授業研究会で披露できるように計画させたい。
- * 文化祭準備期間と重なるため、夏休みの学習会に集まる日程を利用させたい。
- * 原案は2学期早々に会議で下ろす。
 - ・内容の抽出→パターン5つ程度
 - ・チーム分け→パターン①～⑤の担当者を決定
 - ・日程計画と完成披露の場の設定

第3次：チームごとに割り当てられた内容に沿って演出、撮影日程を企画。

- * チームごとに集まり、企画を練らせたい。
- * チームで原案ができたなら、配役や撮影場所などを決定し、報告させる。
- * 撮影・編集はMLS担当の教師が行う。
- * 動画にナレーションと字幕を入れる。
 - ・ナレーションは希望者2名
 - ・字幕は担当教師で行う。

第4次：動画を披露する。

- * 公開授業の研究協議の場で、生徒に動画についてプレゼンさせたい。
 - ・制作するに至った経緯
 - ・感想や今後への思い

4 ESD との関連性

- ① ESD の視点
 - ・多様性⇒多面的な考え方に触れる
 - ・相互性⇒繋がっている
 - ・公平性⇒持続可能な文化として構築する
 - ・連携性⇒仲間との関わりの中で互いに高め合う
 - ・責任性⇒協力してやりとげる
- ② ESD の資質や能力
 - ・クリティカル・シンキング⇒物事を問い直し、新たな方法を見いだす力
 - ・長期的思考力⇒現状維持の先にある未来に危機感を持ち自分のライフスタイルを想像して、今できる行動変容に繋げる力
 - ・システムズ・シンキング⇒どう映像化すれば効果的かを構想する力
 - ・他者と協力する態度⇒縦割りの組織で協力し創り上げる力
 - ・進んで参加する態度⇒自分にできることを見だし、自主的に行動する力
- ③ ESD の価値観
 - ・主体的に学び、対話的に課題解決する力を身につける
 - ・協働的に学ぶことで世代間・世代内の公正を図る
 - ・探究的に思考することにより、より質の高い学びを獲得する
 - ・人権や文化を尊重する
- ④ 関連する ESD
 - ・目標4 質の高い教育をみんなに
 - ・目標5 ジェンダー平等を実現しよう

- ・目標 10 人や国の不平等をなくそう
- ・目標 16 平和と公正を全ての人に
- ・目標 17 パートナースHIPで目標を達成しよう

5 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 主体的と自立的、対話と会話の違いを説明している。 ② 聴くこと、伝えること、考えることの大切さを知っていて、努力している。 ③ 学びの作法を知っている。 ④ 仲間を大事にし、他と関わろうとしている。	① 自分のクラスの状況を客観的に把握している。 ② 友だちの声を受け止め、自分の考え方の幅を広げたり深めたりしている。 ③ 自分の考えをわかりやすく伝えている。また、粘り強くその努力をしている。 ④ 周囲の状況に流されず、善悪の判断ができています。	① 現状を改善するために何ができるかを考え、自分にできることに取り組んでいる。 ② 集団の所属観が高く、仲間を巻き込んで学習に取り組もうとしている。 ③ 常にブラッシュアップしようとする熱意があり、工夫できている。

6 指導計画

次	主な学習活動	学習への支援	評価・準備物
1	MLS 定例会議 ○各クラスの授業の様子を交流する。 ・うまくいっていること ・困っていること ・どうしたら改善できるか ○基本的な「学びの作法」を定着させるために他校の動画を見せる。 ・比叡山中学校にも必要かを対話する。 ○企画担当を決定する。	・他クラス、他学年の状況を共有し、自分のクラスにどんな働きかけが必要かを考えさせる。 ・注意したり、言いにくいことを動画で示したりすることでMLSの気持ちが楽になるのであれば、制作に踏み切る。 ・時期的に3年生の負担にならないように2年生を中心に行うよう示唆する。	評価 イ、ウ 準備物 ・高知のある学校が作成した動画
2	企画担当者会 3回（夏休み中） ① どのような内容で構成すればよいかを考える。 ② メンバー構成を考える。 ③ ナレーションの原稿をつくる。	・構成 ① 机の寄せ方 ② ホワイトボードの使い方 ③ タブレットの使い方 ④ 学び合いに集中できない人に ⑤ 積極的な対話の進め方	評価 ア、イ、ウ

		<ul style="list-style-type: none"> ・メンバー <ul style="list-style-type: none"> *学年が混ざるように *グループのリーダーシップは2年生がとれるように。 ・ナレーション <ul style="list-style-type: none"> *原稿を各グループに提示することで、キャラクターや背景のイメージを持ってもらえるようにつくる。 	
3	<p>各チームの具体的な撮影企画と撮影</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 全体会議を行い、誰がどの場面を映像化するのかを決める ② チームで集まり、配役や場面、台詞をつくる。 ③ それぞれの役割を確認し練習する。 ④ 撮影日と場所を決定する。 ⑤ 撮影は9月中に終わること。 ⑥ ナレーションをつけるのは10月17日までに終わること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会議は文化祭前で設定が難しいため、各チームで集まるのに可能な日程の調整をする。 <ul style="list-style-type: none"> *チーム独自で時間を見つけて練習するように伝える。 ・場面、配役、台詞を確認する。 ・立ち稽古をやってみて、修正を加えていくのもOK。 ・撮影・編集は教師で ・ナレーションの分担を行い、映像を見ながら練習する。 ・ナレーションで補えない部分は吹き出しをつける 	<p>準備物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナレーション原稿 ・メンバー表 ・構成内容表 ・撮影に必要な服装、場所 ・撮影用カメラ <p>評価</p> <p>ア、イ、ウ</p>
4	<p>映像をプレゼンする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① MLSで試写会をする。 ② 授業研究会研究協議の場で2年生の企画メンバーがプレゼンする。 ③ 各クラスでESTや昼食の時間を使って全校生徒が視聴する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画制作に至った経緯と制作の工夫を効果的に伝える工夫をする。 <p>【 時間配分、分担、原稿 】</p> ・視聴しての感想をもらえるようMLSで取材する。 ・修正の必要な箇所や来年度にブラッシュアップしたものを制作するに当たって意見をまとめる。 	<p>準備物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作動画データ ・タブレット ・スクリーン <p>評価</p> <p>ア、イ、ウ</p>